

平成26年度

施政方針

福岡県古賀市

目 次

1. はじめに	…	1
2. 平成26年度予算編成について	…	5
3. 平成26年度に行う主な事業について	…	9
(1) 活気とにぎわいあふれるまちづくり	…	9
(2) 自然を大切にし 環境にやさしいまちづくり	…	10
(3) こころ豊かに学び続ける人が育つまちづくり	…	11
(4) 住みやすい生活環境の整ったまちづくり	…	12
(5) 安全で安心して暮らせるまちづくり	…	13
(6) すこやかで元気あふれるまちづくり	…	15
(7) 互いに認めあい みんなでつくるまちづくり	…	17
4. 平成25年度3月補正予算に係る事業について	…	18
5. おわりに	…	18

1. はじめに

昨年は、2020年東京オリンピック・パラリンピックの招致成功や、富士山がユネスコの世界文化遺産に登録されたことに続き、和食が無形文化遺産に登録されるなど日本のすばらしさが世界に発信された一年でした。その一方で、記録的豪雨などによる被害やPM2.5の飛来などこれまで経験したことのない自然災害や気象現象に見舞われました。

社会経済面においては、アベノミクスによる大幅な円安と株高が実現し、輸出企業を中心に企業業績が改善するなど、景気は回復基調で推移しましたが、中長期的にもデフレと低成長からの脱却が確かなものとなるかは、今後の成長戦略の効果や消費税率引上げなどの影響によりその先行きは不透明なものと思われまます。

古賀市におきましては、このような国の動向、経済状況を注視しながら、子どもから高齢者まで全ての市民のため、「第4次古賀市総合振興計画」に掲げる将来像「つながり にぎわう 快適安心都市 こが」の実現に向けた取組を着実に前に進めていかなければなりません。

将来にわたり持続可能なまちづくりを行うにあたって、重要な事柄の1つとして定住人口の確保が挙げられます。古賀市の人口については、平成16年度における一時的な減少を除くと、年々増加し続けておりました。しかしながら、昨年の4月以降は緩やかな減少傾向を示しておりますとともに、人口構成における高齢化率は依然として上昇傾向にあります。

また、年々増え続けている扶助費への対応についても、今後の市政運営の大きな課題でありますことから、引き続き歳出については経常経費の削減に努め、歳入では更なる自主財源の確保に取り組むなど健全財政を推進してまいります。

以上のことを踏まえ、平成26年度の市政運営にあたっては、「第4次古賀市

総合振興計画」に基づく政策を基本としつつ、将来にわたって古賀市が継続的に発展していくための政策に重点を置くこととします。

まずは、活気とにぎわいあふれるまちづくりです。

福岡市近郊で市内に3つのJR駅を有するという特色を生かして、駅周辺を整備し、利便性を向上させ、質の高い市街地を形成することは、地域経済に多大な効果を与えるものと考えます。そのため古賀駅を含めた中心拠点の活性化に向けた取組を行います。

古賀駅東口周辺については、その土地利用の可能性と方向性を検討するための現況調査などを行い、基本構想を策定します。また、リーパスプラザ周辺を生涯学習推進ゾーンとして、「生涯学習センター（仮称）」の建設やその周辺施設の整備を始めます。

一方、篠林地区における開発は順調に進んでおり、それに続くべく玄望園地区や高田地区などにつきましても、引き続き支援を行ってまいります。古賀インターチェンジ周辺につきましても、土地利用の転換において高いハードルがありますが、今後のあり方について調査研究してまいります。

また、道幅の狭い生活道路の改善や歩道の設置、農業集落排水処理施設をはじめとする上下水道に係る施設整備などのインフラ整備についても計画的に行い、市民の生活環境の向上に努めます。

さらに、去年は薬王寺地区の観光PRや小中学生を対象とした工場見学など、古賀市の持つ資源を生かした新たな取組とともに、「食の祭典」「K-1グランプリ」「朝どり！こがスイーツコーン祭」「2年目の恩返し ふるさと大使 大吉先生の里帰り」などが開催され、市内外からの注目を集めましたことから、今年度も引き続きこれらの事業を行いつつ、地域経済の活性化に向けた取組を推進してまいります。

次に、子育て支援の充実です。

将来の古賀市を担う子どもと子育て世代がすこやかに安心して暮らすことができるまちづくりに向けて、昨年も市内保育所4箇所において増改築を行うなど、その充実に向けた取組を行いましたが、今年度も引き続き力を入れて取り組んでまいります。

就学前や小学生の子どもがいる世帯については、子育てにおける経済的な負担や就労にあたっての不安を少しでも解消するため、小学校6年生までの医療費に対する助成の拡大や認可保育所の新設による待機児童ゼロ施策の推進、学童保育所の増設を行います。地域における子育て環境においても、公園面積の少ない花見地区に新たに公園を整備するなど、子育て支援の充実に向けた取組を行い、若い世代の定住・転入を促します。

そして、共働きのまちづくりの推進です。

地方分権の進展や市民ニーズの多様化など自治体を取り巻く環境が変化し、市民のまちづくりに対する意識も市民活動やボランティア活動の活性化に伴って変化する中、市民一人ひとりをはじめとして、地域・NPO・企業・学校・行政など多様な主体がまちづくりの担い手となり、まちづくりへの参加や共働きでさまざまな課題解決に取り組むことが今まで以上に必要となっております。そのまちづくりにおける基本的な考え方や原則を定める「古賀市自治基本条例（仮称）」の制定に着手します。

その他にも、災害対策の強化に向けた取組として、昨年は自主防災組織の支援や地域住民防災訓練、商業施設との一時避難場所協定の締結、防災講演会などを行いました。今年度も、市民や企業と一体となった取組を行うとともに、消防施設の整備など消防団に対する支援の充実や防災マップの作成、市役所庁舎の耐震化工事などに取り組みます。

さらに、昨年3月には、谷山の船原古墳遺物埋納坑から国宝級とも言われる金銅製馬具が出土し、NHKクローズアップ現代をはじめ、さまざまなメディア

アで報道され、古賀市が全国的に注目を集めました。その船原古墳遺物埋納坑などからの出土品の数々は歴史的・文化的価値が非常に高く、今後は市民の誇りとして大切に保存し、豊かな自然や歴史などを生かした新たな観光資源の掘り起こしとともに一体的な活性化策を検討いたします。

以上のことを踏まえ、平成26年度の施政方針を策定いたしました。

2. 平成26年度予算編成について

《国の予算編成動向》

平成26年度予算編成の基本方針では、デフレ脱却・経済再生と財政健全化の両立の実現をめざすという考え方に立ち、社会保障を始めとする義務的経費などを含め、聖域なく予算を抜本的に見直した上で、経済成長に資する施策に重点化を図ることとしております。この方針のもと、国の一般会計の予算規模は、9兆5,823億円で前年度比3.5%（3兆2,708億円）の増であります。

平成26年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度によれば、平成26年度の我が国経済は、消費税率引上げに伴う駆け込み需要の反動減には留意が必用であるが、「好循環実現のための経済対策」などの推進により、年度を通してみれば前年度に続き堅調な内需に支えられた景気回復が見込まれ、好循環が徐々に実現していくと考えられるとされております。

《平成26年度地方財政計画》

このような情勢の中、国の平成26年度地方財政の歳入歳出規模は8兆3,607億円で前年度比1.8%（1兆4,453億円）の増となっております。このうち地方税収入は、3兆5,127億円で前年度比2.9%（9,952億円）の増となっております。また、地方交付税の総額は、地方税の増収見込みもあり、1兆8,855億円となり、前年度比1.0%（1,769億円）の減で、臨時財政対策債を含めた実質的な地方交付税の総額は、2兆4,807億円で前年度比3.4%（7,949億円）の減であります。

なお、地方財政の財源不足額は前年度比2兆6,870億円縮小し、10兆

5, 938億円となりますが、極めて厳しい地方財政の現状及び現下の経済情勢の中、引き続き大幅な財源不足となっております。

《古賀市の平成26年度予算編成》

平成26年度は、厳しい財政状況が続く中、健全財政を推進しながら、「つながり にぎわう 快適安心都市 こが」の実現をめざし、「第4次古賀市総合振興計画前期基本計画」に掲げた「重点プロジェクト」の目的を、より効果的に達成するための施策「重点プロジェクト推進施策」に優先的に予算配分を行いました。

その結果として、平成26年度一般会計の予算規模は195億3,100万円となり、前年度比12.3%（21億4,300万円）の増となりました。また、一般会計、各特別会計及び公営企業会計を含めた平成26年度予算の総額は、334億2,500万円となり、前年度比8.8%（26億9,300万円）の増となりました。いずれも過去最大の予算規模となっております。

《平成26年度一般会計予算》

歳入面では、市の一般財源の根幹をなす市税につきましては、景気回復などに伴う市民税・固定資産税などの増により、前年度比3.4%（2億2,500万円）増の68億600万円、依存財源である地方交付税につきましては、市税が増えると減額配分となることから、前年度比3.1%（1億円）減の31億6,000万円を見込んでおります。また、消費税率引上げに伴う地方消費税交付金は、前年度比13.9%（7,800万円）増の6億4,100万円を見込んでおります。

特定財源である国庫支出金は、前年度比45.2%（11億8,900万円）増の38億2,300万円を見込んでおります。これは、「中央公民館研修棟

及び周辺施設整備事業」など普通建設事業の増と消費税率引上げに関連する臨時福祉給付金などによるものです。また、各種基金につきましては、過度な取り崩しとにならないよう残高に留意しながら、前年度比8.2%（4,700万円）減の5億2,500万円の繰り入れを行います。市債に関しましては、世代間の負担の均衡及び交付税措置の有無を考慮し、前年度比44.2%（5億9,200万円）増の19億2,900万円の発行を予定しています。主な増額理由は、国庫支出金同様「中央公民館研修棟及び周辺施設整備事業」などの増によるものです。

歳出面では、性質別に見ると義務的経費である扶助費は、前年度比11.2%（5億1,700万円）増の51億2,400万円を、計上いたしております。主な増額理由は、臨時福祉給付金と子育て世帯臨時特例給付金であり、この臨時的な増額理由を除く、扶助費の実質的な増は6.2%となります。普通建設事業費は、前年度比157.7%（16億6,900万円）増の27億2,700万円を、計上いたしております。これは、「中央公民館研修棟及び周辺施設整備事業」、「浜大塚線整備事業」などの増が主な要因です。

なお、優先的に予算配分した3年目となる「重点プロジェクト」に係る経費として、「地域経済活性化プロジェクト」に1億2,800万円、「安全・安心プロジェクト」に7億4,500万円、「子どもすこやかプロジェクト」に35億9,600万円、「健康づくりプロジェクト」に4億7,000万円、「活躍支援プロジェクト」に9億600万円、総額で58億4,500万円となり、前年度比18.2%（9億100万円）増の予算を計上いたしました。

《平成26年度特別会計及び公営企業会計予算》

- ・住宅新築資金等貸付事業特別会計（予算規模500万円、前年度比10.0%（100万円）減）については、平成26年度も引き続き貸付金の回収が主な事業内容となっております。
- ・国民健康保険特別会計（予算規模63億7,200万円、前年度比3.0%（1億8,800万円）増）については、保険給付費の大幅な伸びが予想されることから予算額についても増額となっております。
- ・後期高齢者医療特別会計（予算規模6億2,300万円、前年度比3.1%（1,900万円）増）については、被保険者増に伴う予算増となっております。
- ・介護保険特別会計（保険事業勘定：予算規模32億2,200万円、前年度比3.2%（9,900万円）増、介護サービス事業勘定：予算規模2,600万円、前年度比3.8%（100万円）増）については、高齢者の増加に伴う保険給付費が予算増となっております。
- ・公共下水道事業特別会計（予算規模17億8,600万円、前年度比0.6%（1,100万円）減）については、施設の老朽化に対応するため、下水道長寿命化計画に基づき、施設の更新工事及び補修工事を実施することとしております。
- ・農業集落排水事業特別会計（予算規模3億9,500万円、前年度比220.3%（2億7,200万円）増）については、薦野・米多比地区の汚水処理施設の整備事業を実施することとしております。
- ・水道事業会計（予算規模14億6,500万円、前年度比1.1%（1,700万円）減）については、グリーンパーク配水管布設工事及び浄水場管理本館耐震補強外部改修工事を実施することとしております。

3. 平成26年度に行う主な事業について

平成26年度に行う主な事業について、「基本目標」別に説明いたします。

なお、重点プロジェクト推進施策に該当する記述については、【重点】、新規に行う事業を含む記述については、【新規】と記載しております。

(1) 活気とにぎわいあふれるまちづくり

古賀駅を中心とした市街地の土地利用について検討し、人やモノが集まる活気とにぎわいのあるまちづくりを推進します。

また、農林業や商工業、観光においても豊かな自然や歴史、「モノづくり力」など古賀市の持つ資源を大切にしつつ、その特色を最大限に生かしたイベントや情報発信、販路拡大などの振興策に取り組み、地域経済の活性化を図ります。

- ① 古賀駅東口周辺について、質の高い、魅力と活気あるまちづくりに向けて、さまざまな可能性について検討し、その基本構想を策定します。【新規】
- ② 「さと」「やま」の豊かな自然や歴史などの地域資源の魅力を生かした観光振興策に取り組みます。【重点】
- ③ 地場の農産物を使用する郷土料理の調査・研究や「K-1グランプリ」の開催により、特産品づくりやその販路拡大に取り組みます。【重点・新規】
- ④ 農業の担い手や農地についてなど今後の地域農業のあり方について、各地域との話し合いを重ねながら「人・農地プラン」の策定に引き続き取り組みます。【重点】

- ⑤ 市内消費の喚起を促すため、商工会の発行するプレミアム付き商品券の財政的支援を拡充します。【重点】
- ⑥ 市内中小企業が新規開発した製品について、市が試験的に購入し、官公庁販売実績を作ることで販路拡大の支援を行います。【重点・新規】
- ⑦ 市内企業の技術力や商品をPRするための「食の祭典」や「まつり古賀」、市内小中学生などを対象とした工場見学や体験教室を引き続き開催します。
【重点】
- ⑧ ガイドマップの活用や観光協会との連携などを通じ、市の観光情報を広く発信し、観光の振興を図ります。【重点】

(2) 自然を大切にし 環境にやさしいまちづくり

豊かな自然と環境を次世代に継承するため、市民・地域・企業・行政などが一体となって、環境負荷低減やごみの減量・適正処理、地球温暖化防止など循環型社会の形成に取り組み、自然を大切にし、環境にやさしいまちづくりを推進します。

- ① 循環型社会の形成に向け、今後の古賀市に適した廃棄物処理について、事業系ごみの実態把握調査をはじめとし、総合的な廃棄物・資源の調査研究に取り組みます。
- ② 環境負荷の低減に関心を持つきっかけづくりのため、グリーンカーテンの普及・指導などの支援を継続します。【重点】
- ③ 荒廃が見込まれる森林について調査し、その結果に基づいた間伐作業などを行い、森林が持つ公益的機能の回復・維持・改善を図ります。

- ④ 「第2次古賀市環境基本計画」の推進に向け、共働でのネットワーク組織である「ぐりんぐりん古賀」に対する活動支援を充実します。
- ⑤ 地球温暖化を防止し、低炭素社会実現に向けた取組として、太陽光発電システム・エネファームの設置費用の補助を継続します。【重点】

(3) こころ豊かに学び続ける人が育つまちづくり

学校教育の充実や社会教育の振興などに取り組み、子どもから大人までこころ豊かに学び続ける人が育つまちづくりを推進します。

リーパスプラザ周辺を生涯学習推進ゾーンとし、その拠点としての「生涯学習センター（仮称）」の建設やその周辺施設の整備を行うことで、市民の生涯学習活動を推進します。

市民の財産である文化財については、適切に保存し次世代に継承するため、調査・分析を行い、活用方法を検討します。

- ① 市民の生涯学習の総合的な活動拠点施設として、「生涯学習センター（仮称）」の建築やその周辺施設の整備を行います。【重点】
- ② 船原古墳遺物埋納坑及び関連遺構・古墳について、九州国立博物館・九州歴史資料館などと連携して調査を進めるとともに、その活用について検討します。
- ③ 児童生徒にきめ細かな指導ができるよう「小1プロブレム対策学級補助員」などの人的配置を継続するとともに、英語による実践的コミュニケーション力の育成のためALTを1名増員します。【重点】

- ④ 児童生徒の自主的な読書活動を促し、読書の輪が友達・学校・家庭へと広がるよう講座や研修を行い、読書リーダーの養成を継続します。【重点】
- ⑤ 「生きる力」を育むキャリア教育の一環として、中学校2年生の職業体験学習「ドリームステージ」と小学校5年生の「接遇マナー研修」を継続します。【重点】
- ⑥ 食育の推進のため、児童生徒を対象に給食センターの見学・体験学習や保護者と一緒に学校給食献立を中心とした料理教室を行います。【重点・新規】
- ⑦ 花鶴小学校の児童数増加に対応するため、教室の増築工事に向けた設計を行います。また、市内中学校の武道場天井などの耐震調査及び改修工事の設計を行います。
- ⑧ 経済的・社会的に課題のある家庭環境の生徒を中心に、自己実現への支援を行うため、「スタンドアローン（一人で立つ）支援事業」の充実を図ります。
- ⑨ 「古賀市文化芸術振興計画」に基づき、ワークショップや講座を開催することで、文化芸術の振興に関わる人材の育成に努めます。
- ⑩ 子どもの体力向上を図るため、小学生を対象として、楽しみながら運動に取り組む機会を提供する「こがっ子元気アップチャレンジ」を継続します。【重点】

（４）住みやすい生活環境の整ったまちづくり

良好な市街地・住環境の形成や交通環境の充実、上下水道の整備などに取り組み、快適で住みやすい生活環境の整ったまちづくりを推進します。なかでも駅周辺については、交通機関や人が多く集まる場所でもあることから、道路な

どの整備を行い安全性や利便性、景観などの向上に向けた取組を行います。

また、花見地区においては、公園面積が少ないことから花見東地区に新たな公園を整備します。

- ① 千鳥駅東口駅前周辺について、利便性向上のため駅前広場の整備や道路の拡幅に向けて設計を行います。
- ② 子どもの遊び場や健康づくりなど市民の憩いの空間形成のため、花見東地区に新たな公園を整備するための取組を始めます。【新規】
- ③ 古賀グリーンパーク及びその周辺施設のクロスパルこがやコスモス館などへの上水道を整備します。【新規】
- ④ 景観の向上及び道路周辺環境改善のため、ししぶ駅西口ロータリーの壁面花壇の緑地化や道路法面へ防草シートの設置を行います。【新規】
- ⑤ 興山園と薬王寺温泉の間に、遊歩道の整備を行います。【新規】
- ⑥ 古賀市の実情に即した市内公共交通体系づくりのため、公共交通に対する市民の意識調査や有識者を含めた会議を行い、その方向性について検討します。【新規】
- ⑦ 薦野・米多比地区における生活環境の改善、公共用水域の水質保全のため、農業集落排水処理施設の建設に着工します。

(5) 安全で安心して暮らせるまちづくり

災害対策や防犯を強化するとともに、交通安全の推進などに取り組み、すべての人が安全で安心して暮らせるまちづくりを推進します。

防風保安林について、近隣市町がその保全に苦慮している中、古賀市におい

では良好な状態が保たれており、今後も引き続きその保護・育成に努めます。

安全な歩行空間の確保に向けて、西鉄宮地岳線跡地の一部を歩道として整備し有効に活用するとともに、通学路でもある水上小山田線において歩道の整備を行います。

- ① 大根川以南の西鉄宮地岳線跡地については、歩道として整備を行います。
また、水上小山田線については生徒の安全な通行のため、歩道を含めた道路の整備を行います。【新規】
- ② 防風保安林の機能や近隣住民の生活環境向上のため、林内の環境整備、松くい虫防除事業を継続します。【重点】
- ③ 災害時の円滑な避難体制を確立するため、避難所、緊急避難場所の見直しを行うとともに、防災マップを作成します。【重点・新規】
- ④ 自主防災組織の設立や活動を支援するため、自主防災組織の防災備品購入などに対する補助を継続します。【重点】
- ⑤ 地震発生時の木造住宅の倒壊などを防止し、震災に強いまちづくりを推進するため、耐震改修工事に要する費用の一部補助を開始します。【重点・新規】
- ⑥ 小型ポンプ配備など消防施設の整備や消防団員の出動費を増額するなど消防団への支援を充実し、地域防災力の充実・強化を図ります。【重点】
- ⑦ 防犯体制の充実のため、ししぶ駅に防犯カメラを設置します。【新規】
- ⑧ 市役所庁舎の耐震化工事を行うとともに、災害時などの非常時においても必要なエネルギーを確保するため、太陽光発電パネルと蓄電池を設置します。【新規】

(6) すこやかで元気あふれるまちづくり

子育て支援においては、小学校6年生までの医療費に対する助成を拡大するとともに、待機児童ゼロ施策の推進のため新規認可保育所の整備・運営補助や、休日保育の実施などさまざまな面において、子育て世帯の支援を行います。

また、生涯にわたって元気に過ごせる人づくりに向けて、地域における住民主体の健康づくり活動の支援を行うなどの健康づくりの推進や高齢者・障がい者福祉の推進などに取り組み、すべての人がすこやかで元気あふれるまちづくりを推進します。

- ① 子育て世帯の経済的負担を軽減するため、小学校6年生までの子どもの外来にかかる医療費の助成を開始します。【重点・新規】
- ② 生活習慣改善や健康づくり活動を促進するため、地域人材の活動の場として、また、地域住民の自主活動の場としてヘルスステーションを設置し、その活動を支援します。【重点・新規】
- ③ 待機児童ゼロ施策を推進するため、舞の里地区における認可保育所の整備に対し補助を行うとともに、花見地区の新規認可保育所に対する運営補助を行います。【重点・新規】
- ④ 保護者の多様な就労形態に対応するため、市内初の休日保育事業を行う久保保育園に対し補助を行います。【重点・新規】
- ⑤ 健康づくりの推進のため、市民ウォーキングや「古賀を歩こう」を開催するとともに、農・商・工と連携しイベント性を高めることで古賀市のPRを行います。【重点】
- ⑥ 食育の推進のため、特に子育て世帯を中心とした「食」のサポートとして「食育ガイドブック（仮称）」を作成します。【重点・新規】

- ⑦ 特定健康診査の受診率を向上させ、生活習慣病の発症・重症化予防につなげるため、医療機関での特定健康診査の個人負担額を軽減します。【重点・新規】
- ⑧ 質の高い保育・教育の総合的な提供や、地域の子ども・子育て支援の充実を図るため、「古賀市子ども・子育て支援事業計画（仮称）」を策定します。【重点・新規】
- ⑨ 誰もが安心して楽しみながら子育てができる環境づくりのため、地域において子育て支援活動を行う、「子育て応援サポーター」を養成します。【重点・新規】
- ⑩ 花鶴小学校区における学童保育ニーズの増加に対応するため、空き教室を利用している花鶴学童保育所を学校敷地内に新たに建設し、増級を行います。【重点・新規】
- ⑪ 高齢者が安心していきいきと生活できるよう安否確認緊急対応コール事業の利用対象年齢を引き下げるとともに、はり灸利用券の枚数を増やします。【新規】
- ⑫ 障がい者が地域で安心して暮らせるよう、共同生活援助・共同生活介護・相談などを行う障がい者関係の事業所の施設改修に対し補助を行います。【新規】
- ⑬ 障がい者の自立と社会参加及び就労の促進を図るため、職場体験の場を拡大するとともに、職業選択の機会を提供します。【重点・新規】
- ⑭ 市民の正規雇用拡大のため、古賀市に住所を有する者を新たに正規雇用した市内事業所に対し、奨励金を交付します。【新規】

(7) 互いに認め合いみんなで作るまちづくり

市民の住民自治に対する意識の高まりや住民意思を十分反映した自治体運営の必要性から「古賀市自治基本条例（仮称）」の制定に着手します。

また、市民一人ひとりの人権が尊重される人権のまちづくりや共働のまちづくりを推進するとともに、男女共同参画社会の確立などに取り組み、互いに認め合い、みんなで作るまちづくりを推進します。

- ① 住民自治を推進するため、まちづくりの基本的な考え方や原則を定める「古賀市自治基本条例（仮称）」の制定に着手します。【新規】
- ② 市民一人ひとりの人権が尊重され、市民が共に生き、共に支え合うまちづくりをめざし、「いのち輝くまち☆こが2014」「古賀市同和問題を考える市民のつどい」の充実に取り組みます。
- ③ 小学生を対象として、長崎に原爆が投下された日を中心に、夏休み期間を活用し、長崎平和集会の参加やフィールドワークなどを通じ、人権・平和の心を育む「じんけん平和教室」を引き続き行います。
- ④ 税の収入確保のため、債務整理や納税計画の作成などにおいて、専門家（ファイナンシャルプランナー）を活用する生活再建型の納税相談を継続します。
- ⑤ 社会保障・税番号制度の導入にあたって、その効率的な活用について、庁内で検討を行うとともに、住民基本台帳システムなどの庁内既存システムの改修を行います。【新規】
- ⑥ 境界を明確にし、土地活用が円滑に行えるよう地籍調査の本格的な現地調査に着手します。

4. 平成25年度3月補正予算に係る事業について

本来であれば平成26年度予算において実施予定であった事業のうち、国の「好循環実現のための経済対策」を活用し、前倒しによる実施が可能な事業については、平成25年度3月補正予算において、総額3億5,800万円の予算提案を行い、前倒しして事業を行います。

主な事業としましては、小山田地区から「県道米多比谷山古賀線」へのバイパス道新設工事に係る測量設計、花見東地区公園整備に係る測量設計、古賀北中学校のバリアフリー化にかかる改修工事、青柳小学校のプール施設改良工事などに取り組みます。

5. おわりに

ここまで、平成26年度施政方針について述べてまいりました。

市長就任以降、公約の実現に向けてさまざまな政策に取り組んでまいりました。その中でも地域経済の活性化については「活気とにぎわいあふれるまちづくり」として「第4次古賀市総合振興計画」の基本目標の1番目に掲げるとともに、その効果的な達成に向けた重点プロジェクトとして特に力を入れて取り組んできた政策でございます。その中で古賀市の持つ地域資源などが生かされ、地域活性化のまちづくりの成果が徐々にあらわれてきているものと感じております。

平成26年度はこれまでの取組の成果をさらに磨きあげ、継続、拡充させていくとともに、将来にわたって持続発展可能なまちづくりに取り組んでまいり

ます。教育、医療、福祉、防災などの分野におきましても質の高いまちづくりを実現し、未来を担う子どもたちをはじめ、高齢者にいたるまですべての市民が安心して暮らすことができる古賀市をめざし、誠心誠意尽力いたします。

引き続き、皆さまのご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。